

# (特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 会報

Vol.3 1 3 2 3 3 合併号 2025年 4月20日発行



この美しい自然を守ることが、**人類を救う!!**

この数年では、今冬はこのほか寒く、降雪の多さが目立ち、国内外で山火事が頻発、空気の乾燥がニュースになるなど、冬らしい冬ともなりましたが、早めに暖かくなったかと思えば寒の戻りとか、「桜シーズンも長め」となりました。

人間社会では、トランプ旋風が吹き荒れ、この先、読みにくい状況となっていますが、どんな展開となるのでしょうか？こんな時こそ、市民力が問われるのではないのでしょうか？特に、われわれ環境に関わる者として・・・。

予定号が発行できず、申し訳ありません。改めて、会報 Vol.31 32 33 合併号として、お届けします。

## 目次・概要

ページ

- **巻頭言** (特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 理事長 梶田 弘一 **2**  
「トランプ関税」を、どのように受け止めますか!! 反面教師として、エネルギー、食料の自給自足・・・
- **「(特非) 環境カウンセラー全国連合会」へ再加入、その後・・・** **3**  
連合会と連携し、県庁、県内各市を訪問、連合会、当協議会、環境カウンセラーの連携を・・・
- **報告「地域循環共生圏づくり」が、一歩、前進しました!!** **4**  
令和3年度より、清流の国ぎふ森林・環境基金事業補助金の交付を受け、実施してきた「地域循環共生圏づくり」の中間報告です。
- **新入会員を紹介します!!** **7**  
今年度も3名、新しい仲間ができました。
- **会員訪問** **8**  
会員の活動状況を紹介するコーナー第三弾として、古家正明さんに登場願いました。
- **編集後記** **10**

「トランプ関税」を、どのように受け止めますか!!

昨年から今年にかけて、アメリカ・カリフォルニア、日本・岩手、岡山、愛媛などの山林火災連発、そして、世界的な気候変動の中、アメリカ・トランプ大統領は、WHO、パリ協定から脱退など世界の動きに反する施策を連発しながら、極めつけは「自国への輸入品への関税引き上げ」です。

これから、日本政府も厳しい選択、交渉を迫られるでしょうが、国民であるわれわれの覚悟はどうでしょうか？折しも、このところ、「コメ不足」が、物価高と相まって国内の関心事となっており、「この際、関税問題の解決に資するアメリカからコメ輸入を提案したらどうか」などの案も取りざたされているようですが、みなさんはどのように考えますか？

小生、80年の人生で「こうだ」と思ってきたこと、考えてきたことが、ことごとく否定されているようで「困惑の日々」です。国際間の立ち位置の難しさ、交渉の複雑さは云うに及ばず、「グローバル化」なる言葉に安易に乗っかって日々過ごしてきた不明を恥ずばかりです。

それにしても、「世界の警察」を標榜し、自由主義陣営のみならず、世界をリードしてきたアメリカ合衆国大統領が、かくもメンツをかなぐり捨てて、「自国第一主義」を前面に、このような「暴挙」、少なくとも、小生には「暴挙」としか映りませんが、アメリカ国民、その他世界の人たちのかなりの数の者が「自国を守るため、当然」との意見もあるようで、こころあたりが、私たちが学び、啓発に努めてきた「持続可能な社会」構築とどのように折り合えるかが課題と云えるでしょう。

ここで、私たちはこれから起こるであろう諸事象に対し、一喜一憂することなく、「何が問題なのか、何がお互い認めあえるのか」を真剣に考え、できることから行動することが重要と思いますが、いかがでしょうか？私たちは、環境問題を論じる中で、「フードマイレージ」、「地産地消」などを学ぶとともに、化石燃料の温暖化への影響も知りました。

この経験と知識を活かして、「社会」、「経済」、「環境」の諸問題を同時解決する「協調」と「融和」の社会構築に努めることが、われわれ環境カウンセラーの使命と考えますが、いかがでしょうか？

今一度、トランプ大統領の言動を反面教師として、エネルギー、食料の自給率向上に努めてみる価値はありそうです。現在、環境対策として考えられている太陽光発電の「太陽光」を、天から与えられた資源と考え、積極的に未来への投資と考えてみる、環境対策との合わせ技で「農業集落の見直し」を真剣に考え、食料自給の可能性をさぐるなど行動すべきではないでしょうか？一度、考えてみましょう。



田園風景

## ● 「（特非）環境カウンセラー全国連合会」へ再加入、その後・・・

1 昨年より、検討し、昨年通常総会において認めていただいた「（特非）環境カウンセラー全国連合会」再加入については、令和6年6月18日、入会申込書を提出し、同時に入会金、年会費を納入して、入会手続きを済ませました。早速、連合会より6月29日開催の通常総会へ参加案内、総会での発言機会を頂戴し、挨拶させていただきました。今回、新たに加入したのは当協議会のほか、（特非）奈良環境カウンセラー協会、高知県環境カウンセラー協会であった旨、報告も聞いております。

8月5日から8日にかけて、連合会と連携し県庁、県内各市を訪問、連合会、当協議会、環境カウンセラーの広報、意見交換を行いました。改めて、県庁をはじめ、各自治体の環境担当者が、頻繁に担当替えがあったり、環境部署着任が初めてなど、いわゆるスペシャリスト不在を実感させられました。全国連合会も環境本省に同様の感触を得ているようです。これらに対しても、一層、連合会と連携し、広報につとめる必要があります。

これら一連の流れとは別に、「全国連合会」が、全国事務局の指定管理者を継続受託した旨も報告され、少しづつ、環境カウンセラーのための全国連合会に近づきつつあることが実感されています。

そして、われわれ地方団体も加入したことによる連合会との日常応答も徐々に密になってきており、過日、連合会より地方自治体に対する「環境カウンセラーの広報活動」協力依頼が、ポスター等の資料配布とともにあり、理事会メンバーにより対応いたしました。これらの対応を通じて行政との接点も徐々に増加し、今後の活動に有益になるものと思われ、期待できます。



今回の再加入問題を通じて、「環境カウンセラーの社会的認知度が今一つ」との認識は、連合会、地方協議会、環境カウンセラー間で共通のものと確認できました。そして、その解決のためには、それぞれの立場で、地道に粘り強く理解してもらう努力が不可欠だと思います。

具体的にどうするかと云えば、一緒に行動してみることでないでしょうか？単に、口頭で「お願いします。」「このようなことができます。利用してください。」「われわれには優秀なスタッフが揃っています。」では、通じませんね。具体的事案の空気をともに吸い、その形に触れつつ、それらを共有することでお互いの理解が進むものと考えられます。

それぞれの立場でということは、「誰かの役割」、「誰かがやる」のではなく、われわれ、ひとり一人が使命感をもって行動することです。今一度、原点に戻り、「何のため、環境カウンセラーになったのか」を自問自答してみるのも、一考だろうと思います。

これからの活動に期待します。当然のことながら、われわれ執行部も率先垂範行動することをお約束いたします。ともに、がんばりましょう。



## ● 報告「地域循環共生圏づくり」が、一步、前進しました!!

令和 3 年度、「清流の国ぎふ森林・環境基金事業」の補助を受け、「清流の国ぎふ地域活動支援事業」に取り組んで以来、令和 4 年度には補助対象事業に当協議会が前年度取り組んだ「地域循環共生圏構想」の考えを取り入れた「岐阜県地域循環共生圏促進事業」に衣替えした事業に応募して令和 5 年度、6 年度と 4 年にわたり、取り組んできました。

4 年目となった令和 6 年度は、それまでの広報啓発から、一步、前を目指し、取り組む主体の発掘に重点を置き、地域活性化を目標として、すでに一部で事業化している実績のある地域に的を絞り、繰り返し意見交換を進めました。

結果、令和 7 年 3 月 6 日、一般社団法人フォーレサンノクラを主体とする「三郷地域循環共生圏づくりプラットフォーム（仮称）」設立準備会が発足し、令和 7 年秋には「プラットフォーム」設立の見通しとなりました。



準備会状況

昨年度までの3年間は、広く東濃圏域、少なくとも多治見市域単位での取り組みを念頭に、広報啓発を主体に活動したところですが、「地域循環共生圏」という馴染みにくいネーミングも影響し、活動主体の見当すらつかない状況であったため、前文に示したとおり、「まちづくり」を前面に個別面談を主に繰り返したところです。併せて、本事業が「地域」というある程度広域を念頭としていること及び地域の困りごと、課題を転換して新しい発想の下、事業を育てる必要性があり「市民の力が不可欠」であることから、広報啓発活動も継続しました。

本年度事業は、事業実施対象者向け4回のセミナー、一般向け「環境フェア併設セミナー」と前述「プラットフォーム設立準備会」並びに先進事例研究会、温故知新探訪ツアーの2回実施の体験ツアーを実施し、加えて、たじみ環境フェア2025では、「地域循環共生圏づくり」をブース展示しました。

それぞれ実施した事業の概要を示します。  
まず、セミナー初回の第1回は、関係者ほか8名が参加し、環境省中部地方環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 中部）より、原<sup>まさし</sup>理史氏をお招きし、「地域循環共生圏」の基本、具体的取り組み例について、質疑応答を中心に基本の理解に努めました。



セミナー準備状況

第2回目では、第1回を踏まえて、地域の現状を例示しながら、当協議会梶田より、「地域循環共生圏」の要諦を説明し、質疑応答を行いました。基本として、「地域の困りごと、課題」が取り組みのスタートになるため、地域に根差し、地域の現状を十分理解した上で、地域を将来どのようにしたいかがカギになることの理解は、地域住民である関係者に伝わったものと思われます。

第3回は、環境省が発行している「地域循環共生圏づくりの手引き」、「同事例編」を資料として、提示し、具体的取り組み事例を紹介するとともに、環境省ホームページに掲載されている「地域循環経済」の動画を放映し、地域循環経済の概念も学習しました。この会での意見交換では、①多治見市にどう貢献するかを考えた時、「若い女性」がカギ、②地産地消が基本というが、「グローバル化」の世界でどうするのか、③コスト至上主義からの脱却をどうするかなど、核心的な意見も述べられ、少しずつ、具体化に向けた機運が醸成されてきた感触を得ました。

先進事例研究会を体験したのちの第4回では、「（一般社団法人）フォーレサンノクラ」代表理事より、その沿革、目指す方向などが示され、差し当って、「地球村の運営」実現に注力したい旨報告され、参加者の情報共有化、意識共有化が図られ、いよいよ、「地域循環共生圏づくり」への機運が高まってきました。

今年度、4回実施したセミナーは、主目的が活動主体の関係者に「地域循環共生圏」を理解してもらい、地域にどんな課題、困りごとがあるかを認知してもらい、その解決に「地域循環共生圏づくり」を、どう活かすかでありましたが、その目的は十分達することができたと考えます。一方、4回の開催を通じて参加者数が1回あたり10名前後であったことは、将来、地域の拡大に繋げるためには、少々、心もとない結果であったともいえます。

市民への広報啓発を目指し、「たじみ環境フェア2025」併設セミナーに応募し、今年度、当協議会としてブース展示した「地域循環共生圏づくり」に関するセミナーを開催し、16名の参加者に対し、パネル展示した意味、意義などについて、説明しました。一定の成果はありましたが、今ひとつ、参加者数、参加者の層、幅に膨らみがあれば、この先の展開に大きな期待が持てたのではと考えられます。今後の企画に際し、早めの広報等に心がけたいと思います。



たじみ環境フェア 2025 併設セミナー2025.02.16





現地視察、事例体験を目的とした「先進事例研究会」は、令和6年11月28日、恵那市、日本ガイシ株式会社、中部電力ミライズ株式会社三社による設立の恵那電力株式会社の太陽光発電所を見学、現地で担当者から「地産地消」電力の状況について説明を受けました。この発電所は、廃校になった小学校のグラウンドを活用し、日本ガイシの蓄電池と併せて、当面、近隣の公共施設、日本ガイシの工場などに配電することでした。

午後は、同じ恵那市内の中野方地域協議会を訪問し、「森林保全に関する連携と協力の包括協定」を岐阜県、恵那市、中野方地域協議会、コカ・コーラボトラーズジャパンの4者で結び、まちづくりに取り組んでいる状況を見聞し、情報を収集しました。



先進事例研究会恵那電力現地



先進事例研究会中野方地域協議会

温故知新探訪ツアーは、市民が自発的なまちづくりに取り組んでいる「加子母むらづくり協議会」を訪問し、300年の歴史を持つ「山守」の現状と平成大合併で消えた自治体の現状、目指す方向等について、意見交換しました。「山守」の考え方は、江戸時代より続く当地の持続可能な森林管理あり方で、これからの

持続可能な社会構築には、不可欠な制度と感じました。

細かな山林管理の手法等は、この先、事業を進める中で数度となく学ぶ必要はありますが・・・

そして、「むらづくり」についても、合理的に整理したつもりの大合併が、意外にも生活にとって不便であったり、歴史に照らして不合理であったりなど、時間と多様な意見の集約が必要と感じられました。これらも、これからの「地域循環共生圏づくり」に避けて通れない道だろうと考えられます。



温故知新探訪ツアー説明会

「三郷地域循環共生圏づくりプラットフォーム（仮称）」設立準備会には、フォーレサンノクラを中心に13名参加し、今年度の「地域循環共生圏づくり」の活動総括と「三郷地域循環共生圏づくりプラットフォーム（仮称）」設立の条件が整ったことの報告及び次年度秋頃具体的な事業内容も見えてくる旨、報告示され、出席者の賛同を得ました。

**が、・・・この先の展開が読めない状況です!!**

このように、具体的活動主体に目途も立ち、4年に渉る活動の結果として、前途洋々の状況ですが、当協議会をはじめ、関係者の知識、能力が未知数であるとともに、環境省の支援体制も明確でないこともあり、次年度以降、一層の切磋琢磨が不可欠の状況で、会員諸兄のご協力に期待します。

文責： 梶田弘一



温故知新探訪ツアー資料館見学

## ●今年度からの新しい仲間（３名）です!! ようこそ!! そして、歓迎します!!

令和 6 年度、久しぶりに新しい 4 人の仲間をお迎えしたところですが、本年度も 3 名の仲間が増えました。  
未来世代へ、素晴らしい地球環境を残すため、共に頑張りましょう。

山積する課題解決のため、まず、われわれ自身が切磋琢磨し、環境カウンセラーの認知度向上、頼られる組織となるようともに働きましょう!!



浅野 かつ代 さん 昭和 24 年生まれ

・安八郡輪之内町在住

・NPO 法人ピープルズコミュニティ

副理事長兼事務局長

・岐阜県地球温暖化防止活動推進員

・元岐阜県環境審議会委員

・岐阜県環境教育推進員

・ぎふ地球環境塾代表理事

・輪之内町廃棄物減量等審議会委員



熊田 哲夫 さん 昭和 37 年生まれ

・各務原市在住

・岐阜県地球温暖化防止活動推進員

・エネルギー管理士

・公害防止管理者（大気・水質）

・環境サイトアセッサー

・家庭の省エネエキスパート



多賀 吉令 さん 昭和 23 年生まれ

・不破郡垂井町在住

・主な経歴 三菱レイヨン(株)

海津市役所（旧南濃町役場）

岐阜県地球温暖化防止活動推進員

・専門分野 地球温暖化対策（緩和、適応）

再生可能エネルギー

環境教育 & ESD・SDGs

・元・九州大学工学研究院テクニカルスタッフ

## ● 会員訪問

今回は、長く当協議会会員でありながら、控えめな行動で、あまり、皆さんがご存じない古家<sup>ふるいえ</sup>正明<sup>まさあき</sup>さんを紹介します。インタビューさせていただくと、想像どおり、控えめな中で着実な社会に貢献する有為な活動をされていることが、良くわかりました。この先、現在の活動実績を活かし、一層、社会に貢献できる活動を期待したいと思います。



**なまえ** 古家<sup>ふるいえ</sup> 正明<sup>まさあき</sup> さん 70 歳 市民部門 2007 年度登録  
岐阜県岐阜市在住（京都市出身）

昭和 53 年 4 月 三重県立四日市中央工業高等学校に勤務、

平成 9 年 4 月 環境カウンセラー登録

平成 19 年 4 月 岐阜県立岐阜工業高等学校に勤務

令和 2 年から 複数の高等学校で非常勤講師

教員資格・生涯学習に関わる資格（博物館学芸員、図書館司書、認定心理士など）を取得し、学校をベースとした活動を行い、教育、環境に関する委員歴、受賞歴があり、学会等での論文・発表や環境に関する研究助成も受けた。

現在、ユネスコなどの社会活動団体（岐阜県ユネスコ協会、岐阜市歴史博物館、CIESF（発展途上国支援 NGO）、認定心理士など）に所属して環境活動を推進している。

**お名前は、以前より存じ上げていましたが、初めてお目にかかります。**

初めまして。日頃より、何も役に立てず申し訳ないと思っています。

**みなさん、同じような状況だと思いますよ。それぞれに置かれている状況が違うこと、環境カウンセラーそのものが個々の活動に委ねられている面もありますので…。**

現在も、四日市中央工業高等学校で週 1 回、大垣工業高等学校で週 2 回のほか、ユネスコの活動、岐阜市歴史博物館で解説ボランティア、NGO でカンボジアの教育支援活動など、複数の団体での活動となりますので、時間的には厳しいと思っています。学校の方もそろそろと思っていますが、なかなか、思うようにはいきません。

**それだけ、期待され、広角的に活動されていて、良いことじゃないですか？ 今、ユネスコの活動と云われましたが、もう少し、詳しく教えていただけませんか？**

ユネスコと云えば「世界遺産」と云われてしまうのですが、ユネスコは「United Nations Educational Scientific and Cultural Organization」なので、「教育・科学・文化」が活動範囲です。「環境」も活動範囲になります。私は青少年活動を担当しています。去年は小学校、高校、他県のユネスコ等と連携しながら、能登半島地震の被災地支援活動などにも取り組みました。（アイテムとして塩じなどを使わない「エコ消しゴム」を使ったりもしています。）

また、プラスチック問題に取り組んだり、水問題に取り組んだりもしています。



**お聞きすると、環境カウンセラーを前面に出してという形では無さそうですが・・・**

環境カウンセラー単独での需要はなかなかありません。環境カウンセラーの資格は、この資格がなければできないというタイプの資格ではないので、なにか活動する際の専門性をアピールするような形で活かしています。

**環境カウンセラーの資格を、それぞれの活動の部分で補完的に活かすということのようですが、そのように幅広く考えることは重要だと思います。そのような考え方を活かせる分野はほかにありませんか？**

先ほどお話ししたように、ユネスコの活動は「教育、科学、文化」が活動範囲なので「環境」の専門性を活かせる活動はいろいろあります。ユネスコ以外にも、工業高校で高校生に対して教科として「地球環境化学」を受け持ったり、水の分析を指導する際、応用化学が専門の教員と云うだけでなく環境カウンセラーでもあるということを伝えれば、生徒たちも指導を受ける意欲が増したりします。小学校などで講座や講演を依頼された時でも、直接、「環境」がテーマでなくても環境カウンセラーの立場で「環境」に興味を持ってもらうこともできます。また、岐阜市歴史博物館で解説ボランティアをする際、博物館学芸員の発想だけでなく「環境」の視点で解説するとより興味を持っていただけたり、発展途上国への教育支援活動においても「環境」という専門性を示すことができます。

**人それぞれとは思いますが、環境カウンセラーの役割、自分の考える環境カウンセラーとは、どんな立場と考えますか？**

私の場合は「市民部門」なので、環境カウンセラーの役割は市民の方々に「環境」について、少しでも、興味を持ってもらうことだと思います。例えば、被災地支援活動などにおいてもバックには「環境」問題があることなどに、気づいてもらえれば良いように思います。環境カウンセラーは、全面的に「環境カウンセラー」をアピールしなくても、いろいろな社会活動における「バックボーン」という立場で重要な役割を果たすことができると思います。

**確かに、環境カウンセラーを前面に出さなくても、具体的活動の中で、「環境」を意識すればとの考えは理解できますが、実務面でのアプローチは簡単ではありませんね。**

**特に、近年、「環境カウンセラーの認知度不足」が、全国連合会、当協議会の共通問題と認識されています。**

**今後の活動において、ともに意識しながらがんばりましょう。**

**本日は、ご多用中、ありがとうございました。**



萌黄色鮮やかな里山



根尾淡墨桜

## ● 編集後記

今号も、所定の発行日を過ぎてしまいました。能力不足に加えて、懸案の「地域循環共生圏づくり」が、一歩、前進したこともあり、年度跨りとも相まって多忙を極めたことが、この体たらくとなった次第です。

今年も、無事、さくらシーズンも終わり、まわりの野山は「萌黄色」の清々しい息吹を感じさせてくれています。この自然のダイナミズムに負けないよう会員各位のご協力を得ながら、頑張っていきたいと思います。

今号の「会員訪問」では、古家<sup>ふるいえ</sup>正明さんにご協力いただきました。ありがとうございました。次号以降も、会員各位の投稿、インタビューなどをお願いしたいと思います。そちらの方も、積極的にご協力いただきますよう、お願い致します。自薦、他薦問いません。

担当：梶田 弘一

発行：特定非営利活動法人 岐阜環境カウンセラー協議会

〒507-0001 岐阜県多治見市小名田町小滝 5 番地の 301（梶田・宅）

TEL/FAX 0572-88-8037

E-mail : [gifu-ec@ob.aitai.ne.jp](mailto:gifu-ec@ob.aitai.ne.jp)

URL : <http://www.gifu-ec.jp>

発行責任者：梶田 弘一